

株式会社ディバイン

○所在地:兵庫県伊丹市池尻2丁目269 ○TEL:072-770-1008 ○設立:平成元年12月21日 ○代表者:代表取締役 中野 芳知
○従業員数:4人(平成30年5月現在) ○資本金:1,000万円 ○E-mail:nakano@divine-jp.com ○HP:http://www.divine-jp.com
●事業内容:古漢方製法による化粧品製造販売

天然素材の効用をフルに生かし、ユーザーの熱望に応える 皮膚用化粧品を開発試作、他社と差別化し、売上・利益を拡大



東南アジアで自生する天然木を素材に有効成分を抽出して、皮膚改善効果の高い化粧水を開発する。天然の成分を余すところなく活用し、口に入れても安全な化粧水を肌トラブルに悩む消費者へ提供する。

当社は、天然由来の成分を活かしたオリジナルのシャンプー・リンスをOEMで製造し、主に全国的美容院へ卸している。美容院の顧客を対象にしたアンケート調査を行ったところ、「乾燥肌」「しみ」「くすみ」「しわ」「ほうれい線」などの皮膚のトラブルを解消できる肌用化粧品を作りたいとの声が多かった。おりしも、ミャンマーの知人から、当地で2000年以上使われ続けている伝統化粧品「タナカ」の話聞き、これをローションにできないかと考えた。ミャンマーでは、頬を白く塗る「タナカ」を嫌がる若い人も増えており、白くならない透明なローションを開発すれば、現地でも喜ばれるはずである。

- 「タナカ」の天然成分を活かした化粧品の開発
- 日本での市場投入および販売拡大
- 海外への展開

当社の製品は、自然の草木から生薬を煮出して「煎じる」「濾す」を繰り返し、できた全煎液を丸ごと商品に使用することを基本にしている。通常では、植物等の中にある有効成分だけを抽出して使うのに対し、その他の成分も含めて自然が持つ力全てを取り入れようというものである。本事業では、「タナカ」の成分を余すところなく抽出し、防腐剤無添加で安心安全な化粧品を開発することを目標とした。

「タナカ」は柑橘系の木の一種で、ミャンマーの女性はこの木を専用の硯で擦ってペースト状にし、頬や腕などに塗っている。そのためミャンマーの女性の顔は、白や黄色でペイントしたようになっていることが多い。これは化粧法というだけではなく、日焼け止めや美肌の効果があるとされている。当社ではこの「タナカ」の木を取り寄せ、煎液の抽出に取り組んだ。試行錯誤の末、「タナカ」の煎液を原料とした化粧水と水白粉を完成させることができた。マーケティングのため、完成した化粧水を小容量のサンプル容器で各3,000個制作し、全国のお客様へ送付した。

同社の強み

- ・独自に開発した、天然成分の抽出方法
- ・古来の漢方薬にはないオリジナルの成分配合・組み合わせ
- ・天然の成分を丸ごと使用するやり方と、それを追求する社長の探求心

ポイント

独自にあみ出した製法と配合



【「タナカ」の木】
「タナカ」の木は、乾燥した状態で流通している。化粧品の成分を抽出するためには、この皮のみを使用する必要があった。乾いた木の皮だけをはぐには苦労が伴ったが、独自の手法を用いることで解決できた。また、成分抽出のためには皮を煎じて濾す作業を繰り返す必要があるが、簡単に抽出する方法を考え出した。これにより、「タナカ」の全成分を抽出した煎液を、量産することができるようになった。

煎液を化粧品にするには、配合が問題となる。試行錯誤の末、天然の成分を活かしながら化粧品として使える独自の配合を確立させた。これにより、防腐剤を使用せず口に入れても無害な化粧品を作り出すことができた。

3分の2のお客様が継続使用したいと回答
取引先美容院から150社を選び、その顧客3,000人に試供品とアンケートを配布し、回答があった301枚のアンケートを集計した。その結果、化粧水は「肌がしっとりした(43.9%)」や「肌がすべすべした(34.2%)」との回答を得た。水白粉は、「肌がしっとりした(32.9%)」や「肌のキメが整った(22.3%)」との回答を得て

おり、いずれも高評価であった。全体の約3分の2となる65.4%が「継続して使用したい」と回答しており、普及が期待された。



【「タナカ」化粧品】
現在、ローションの販売開始から約1年が経過し販売量も増えつつあるものの、目標には届いておらず、普及が課題となっている。商品自体の評価は高いことから、今後は販売先を再考し販路拡大をしていく予定である。

ミャンマーへの進出
日本での販売量は芳しくないが、ミャンマーの知人を通して現地の反応を調べたところ、好評を博している。そこで、ミャンマーでの販売を開始することにした。「タナカ」は伝統的な化粧法であるが、欧米の化粧品が普及したこと、頬が白くなる「タナカ」を嫌がる女性も増えている。しかし、スキンケアとしての「タナカ」は依然根強い人気があり、白くならず天然の成分だけを抽出した商品は、現地で人気となる可能性が大きい。現地のビジネスパートナーもでき、今後はミャンマーでの販売拡大を目指す。新製品を作って「タナカ」シリーズのラインナップも充実させる予定である。ゆくゆくは、現地で工場を造り、煎液を日本へ輸入する形で生産体制を整えたい。

社長の声



株式会社ディバイン
代表取締役 中野 芳知氏

自然生薬が丸ごと入った漢方にこだわり続ける
繊維問屋に勤めていた頃、営業で色々な服売場を歩き回っていたのですが、呉服売場に行くといつも涙が出ました。悲しいのではなく、化学成分が目作用して涙が出るのです。このことをきっかけに漢方に興味を持ち、様々な研究を行って、独自の製法に行きつきました。当社の商品に使っている組み合わせ(甘草・十葉・決明子)は、漢方のバイブルでもある“本草綱目”“神農本草経”“医心方”にもありません。当社独自の組み合わせです。自然の中で生まれた草根木皮の“いのち”を人間にそそぐ。東洋医学的な考え方を貫くことが、当社の生き残る道だと考えています。自然生薬が丸ごと入った化粧品で、喜んでもらえる人を増やすのが目標です。